

平型ショーケース・アイスベッド専用超音波加湿器

FT-FS *series*

FT-40FSC1/FSC1UV

取扱説明書

このたびは、ユーキャン超音波加湿器をお買いあげいただきまして誠にありがとうございます。このマニュアルをよくお読みになり、取付、保守、点検を行って下さい。

要保存

施工業者の皆様へ。
工事完了後、ユーザーの方へお渡し下さい。

ユーキャン株式会社

安全上のご注意

ご使用前に必ずお読み下さい。また、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管して下さい。

ここに示した注意事項は、加湿器を安全にお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。誤った取扱いにより生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しております。安全に関する重要な内容ですので必ず守って下さい。



警告

人が死亡または重傷を負う恐れのある内容を示しています



注意

人が傷害を負ったり、物的損害が発生する恐れのある内容を示しています

※トランスボックスに表示している記号の意味について



感電注意を表しています。



警告

- UVランプ搭載機種では、裸眼でUVランプを見ないで下さい。失明の原因となります。
- 濡れた手で電装部をさわらないで下さい。感電の原因になります。
- ACケーブルを傷つける、加工する、引っ張る、無理に曲げるなどのことはしないで下さい。傷ついた部分から漏電して火災や感電の原因になります。
- ACケーブルを束ねたり、結んだりして使用しないで下さい。火災や感電の原因になります。
- 万一、煙が出たり変な臭いがするなどの異常が起こった場合、そのまま使用を続けると火災や感電の原因になります。すぐに電源スイッチを切り、主電源を抜いて下さい。その後直ちに販売店または最寄りの営業所（巻末に記載）までご連絡下さい。
- 本器の不必要な分解、改造をしないで下さい。火災や感電の原因になります。
- 加湿器本体、トランスボックス、リモートコントローラに水をかけないでください。故障や漏電の原因になります。



注意

- UVランプ搭載機種では、UVランプの光を皮膚に長時間当てないで下さい。皮膚の炎症を起こす原因となります。 皮
- 運転中は、移動したり振動をあたえないで下さい。感電、漏電の原因になります。
- 不安定な場所や振動のある場所に設置しないで下さい。加湿器が倒れたりしてけがの原因になることがあります。
- ほこりの多い場所、直射日光の当たる場所、高温や火気の近くには設置しないで下さい。火災の原因になることがあります。
- 緊急時に電源を落とせるように、ブレーカの周りには物を置かないで下さい。異常時にブレーカが落とせず、火災や感電の原因になることがあります。
- 指定以外の電源電圧で使用しないで下さい。火災や感電の原因になることがあります。
- アース線は必ず接続して下さい。
- 回路チェックにメガテスターは使用しないでください。高電圧で電子部品故障の原因になることがあります。
- 寒冷地、氷点下で使用する場合は、凍結防止の処置を給水配管全てに行ってください。凍結により給水チューブが破裂することがあります。
- 振動子の寿命は約5,000時間です。使用環境、条件により寿命が短くなる場合があります。
- 水槽内の水を清潔に保つため、3日に一度は水槽内の清掃を行ってください。雑菌が繁殖することがあります。
- 清掃時は、電源を切って下さい。感電の恐れがあります。
- 加湿器を長時間使用しない時は水槽の水を捨てて下さい。排水をしないで引き続き使用しますと、雑菌等により異臭を発することがあり、身体に悪影響を及ぼすことがあります。
- 加湿器には水以外の物を使用しないで下さい。故障を起こし、火災や感電の原因になることがあります。

※加湿器の運転状態（噴霧量調整器や給水温度等）によって、水温が上昇することがあります。吹出した霧は気化熱を奪いすぐに温度が下がりますが、安全のため、陳列物は吹出口から30cm以上離して設置してください。

※本器では、上蓋の内面で結露し滴下します。ショーケースやアイスベッドの排水からこの結露水をスムーズに排水できる様にご考慮ください。

使用上の注意：

使用してよいもの

- ・ 80℃以上で加熱調理するもの
- ・ 皮をむいて調理する生食用鮮魚
- ・ 調理前に洗うもの など

使用してはいけないもの

- ・ 直接食べるもの

例：ちくわ、かまぼこなどの練り物。寿司、しらす、干しエビ、生食用の甘エビ、鯨ベーコン、惣菜など

1. 設置

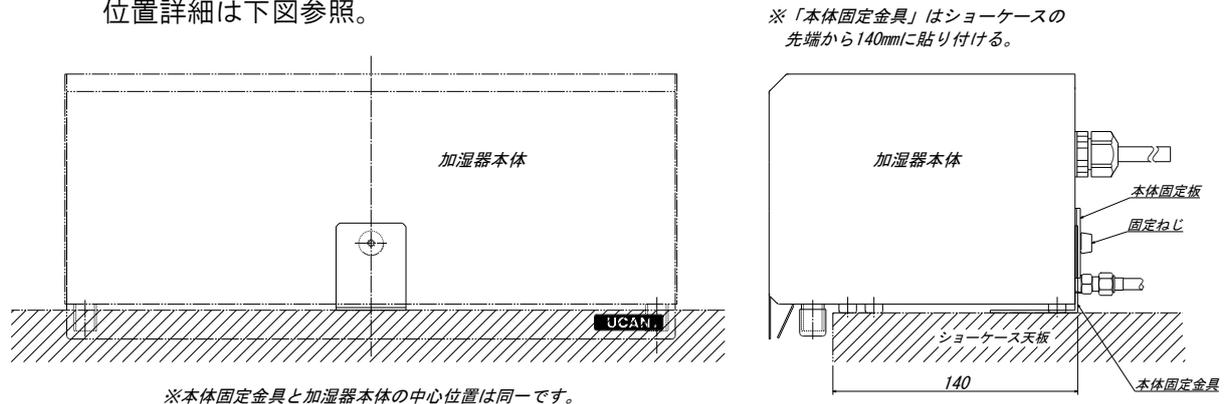
加湿器本体、トランスボックス、リモートコントローラは

- ・水のかからないところ
- ・熱のこもらないところ
- ・ほこりのつもりにくいところ
- ・周囲の機器による振動をうけにくいところ
- ・水平なところに設置してください。

(ショーケースの天面が水平面でない場合は、当社にご相談ください。)

1.1 加湿器本体の設置

- ① 付属の「本体固定金具」を、加湿器を載せたい場所に貼り付けます。
位置詳細は下図参照。



- ② 前段で取付けた本体固定金具に本体背面の本体固定板を差込みます。
付属の固定ねじ(白ユリヤ)で固定します。
これにより、加湿器の落下を防止します。
- ③ 排水口のキャップはそのまましておきます。メンテ時などの排水のみキャップをはずして排水します。

※加湿器の運転状態(噴霧量調整器や給水温度等)によって、水温が上昇することがあります。吹出した霧は気化熱を奪いすぐに温度が下がりますが、安全のため、陳列物は吹出口から30cm以上離して設置してください。

1.2 トランスボックスの設置

- ① トランスボックスは高温多湿になる場所や水のかかる場所を避けて設置して下さい。
- ② 加湿器本体から遠方に取り付ける場合は、標準の電源コードでは足りないので、予め加湿器の電流値にあった太さの継ぎ足し用コードを準備して下さい。
(推奨：0.75mmSQ以上)
- ③ 後々の保守サービスのため、トランスボックスを取り出せるようにご考慮ください。

1.3 リモートコントローラの設置

リモートコントローラはケース正面手前などの操作しやすい位置に、付属のタッピングで固定してください。また、コネクタの抜け防止のため、トランスボックスにケーブルコネクタを差し込んだ状態で、ケーブルに余裕があるように設置してください。

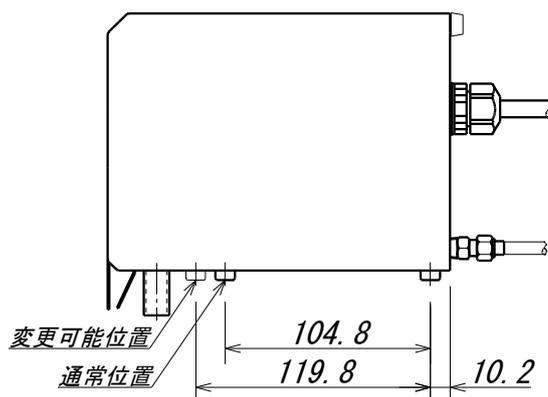
リモートコントローラは霧の量を無段階に調節できます。また、運転・停止の行えるON-OFFスイッチがついております。しかし、メンテナンスなどで加湿器を取りはずすために、トランスボックスの一次側に専用手元スイッチを設置してください。

1.4 本体固定時の微調整について

ショーケースの天板形状や傾斜具合により、本体の水平がとりにくい場合、以下のような調整ができます。

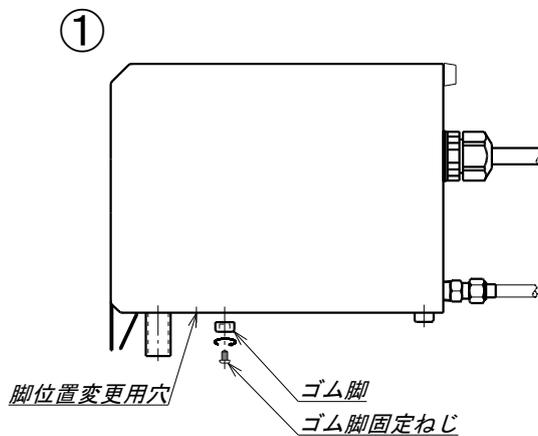
[本体固定ゴム脚位置変更]

本製品の固定用ゴム脚は位置変更が可能です。(吹出側のみ)

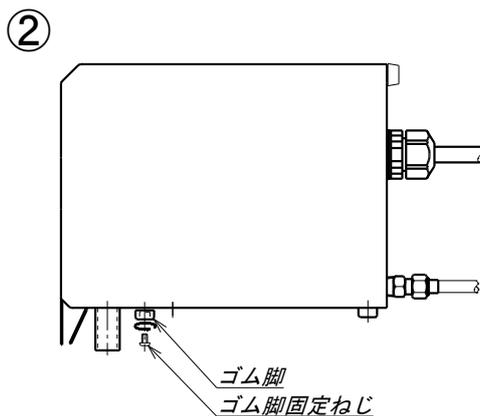


[手順]

① 吹出側ゴム脚を固定している“M3 ねじ”をはずし、ゴム脚を取り外す。



② 変更用のねじ穴にゴム脚を取り付ける。



[取付ゴム脚長さ変更]

ショーケースが傾斜していたり、R加工が施されていたりして、本体の水平を出しにくい場合、付属の“高さ調整ねじ(M3×20)”と“固定ナット”使って高さ調整ができます。

[準備]：高さ調整をするゴム脚をとりはずします。

[手順]

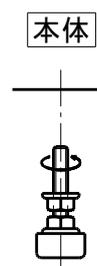
- ① 下図.1のように、ゴム脚、高さ調整ねじ、固定用ナットを組み合わせる。

※ゴム脚固定用ナットをしっかりと締めてください。

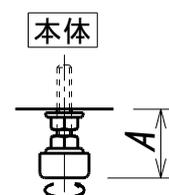


図.1 高さ調整ゴム脚

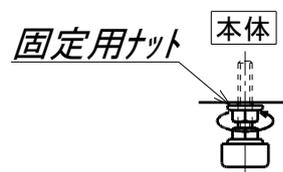
- ② 本体ゴム脚位置に先ほど組み立てた“高さ調整ゴム脚”を取付ける。



- ② 右図の A 寸法を任意の高さに調整する。



- ③ 固定用ナットを締め込み、本体板金に固定する。



※本体天板が水平になるように、高さを調整してください。

2.配管工事

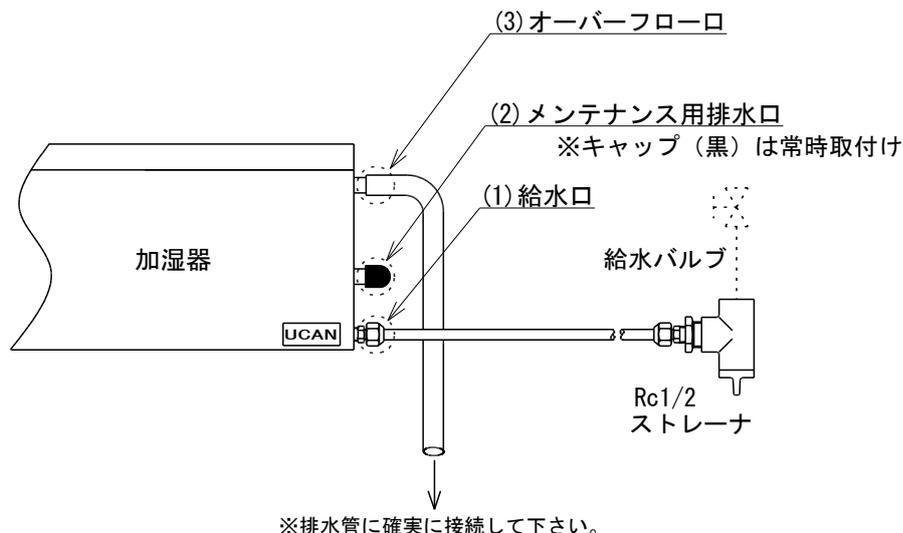
給水は、市水または上水を供給してください。給水圧は、0.03MPa～0.5MPa(0.3～5.0kgf/cm²)の範囲内で供給してください。公共の水道に直接接続することは出来ません。自家用受水槽、もしくはシスターンを設けて下さい。冬期0℃以下になる場合では、加湿器水槽内の水の凍結、給・排水系統の凍結防止策を行ってください。

※補給水の水質について

超音波加湿器は、水を微細な霧状にして空気中へ噴霧しますので水に溶解している鉱物質はそのまま空気中へ放出され、蒸発とともにそれらは“白い粉”となって空気中に浮遊したり、室内の機器類や壁面などに付着します。コンピューターのディスプレイがチラついたり、クリーンルームに塵埃が浮遊するなどさまざまな不都合を生じることがあります。このような“白い粉”の発生を防止するには、RO純水装置などで処理した水を供給する必要があります。

(弊社製品では、UPRシリーズ、UPWシリーズがこれに該当します。ご検討の際は弊社各営業所までお問い合わせください。また、工場設備の超純水等をご使用になる場合、配管等に悪影響を及ぼす場合があります。弊社までお問い合わせください。)

- ① 本体への給水接続は、1/2インチ管を用います。本体の給水接続口より1m以内に配管して下さい。
- ② 管末には、ストップバルブを取り付けて下さい。
- ③ 付属の銅管及び1/2インチストレーナで本体に接続します。なお、本体へ接続する前にしばらくバルブを開き、管の中のゴミを洗い流して下さい。この作業を怠りますと、加湿が正常に行われなかったり、電磁弁のゴミ噛みを生じ、オーバーフローの原因になります。
- ④ オプション排水電磁弁付き以外の排出口にはキャップ（黒）がついています。メンテナンス時以外は絶対に外さないで下さい。キャップが外れていると加湿運転しません。
- ⑤ オーバーフローは正常な運転状態では起こりませんが、本器内の給水電磁弁にゴミが詰まった場合、本体の取り付けが水平でない場合など異常時にオーバーフローすることがあります。付属のビニールホースを排水管に確実に接続して下さい。

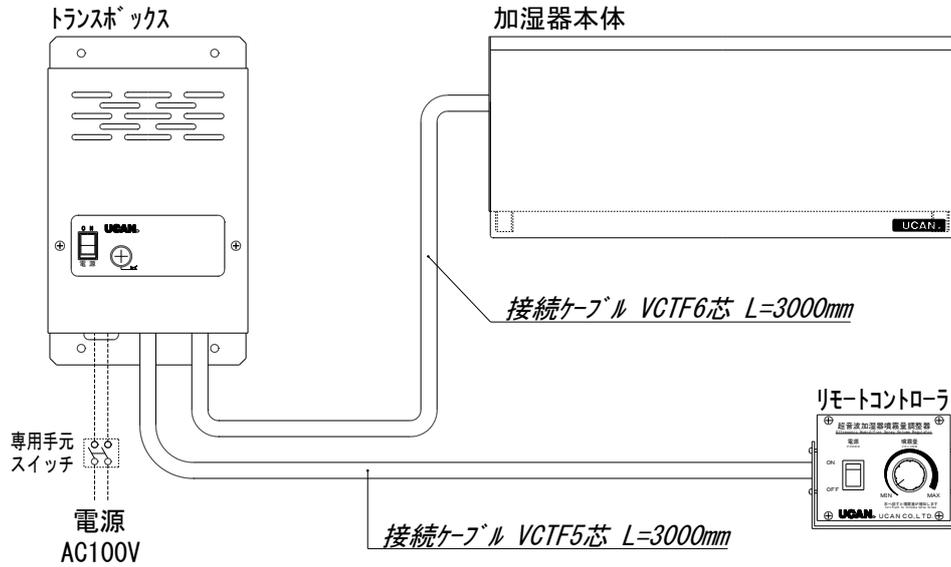


⚠ 注意

- ・機種によって給水口、排水口、オーバーフロー口の位置が異なります。
- ・排水口キャップ（黒）が外れていると加湿運転しませんのでメンテナンス時以外は外さないで下さい。

3.電気工事

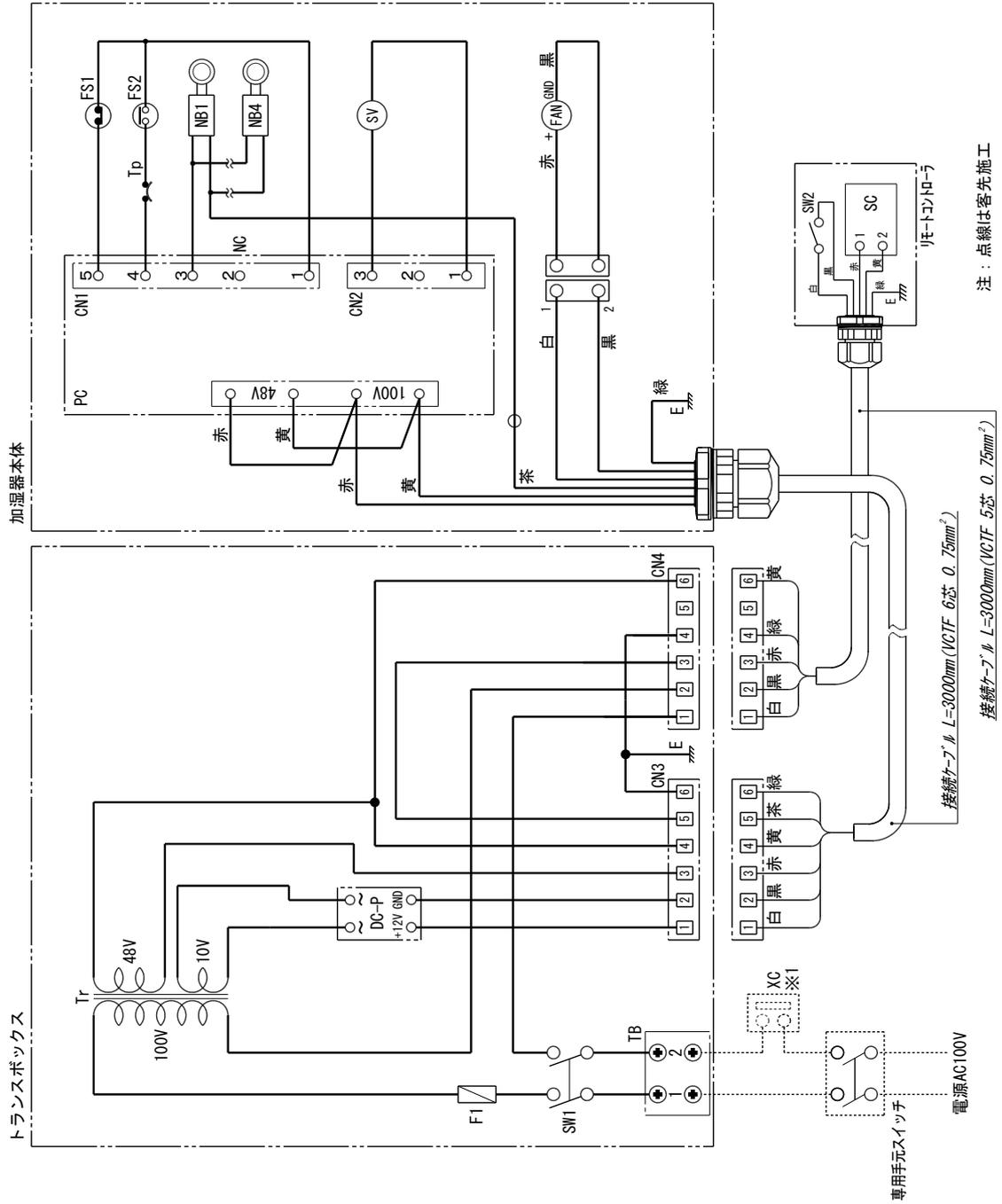
1. 電源電圧はAC100Vです。AC100Vコンセントに、トランスボックスのプラグを差し込んでください。
2. トランスボックスのコネクタに、加湿器本体ケーブルとリモートコントローラケーブルを接続してください。
3. ショーケースのカバーなどを取付ける際、本製品のケーブルを傷つけないように配線してください。
4. 配線後、トランスボックスの電源スイッチをONにしておいてください。



● FT-40FSC1 電気回路図

記号	名称	備考
FS1	給水用リレー	FS-0684A
FS2	加湿用リレー	FS-0683A
PC	制御基板	UP-003E
F1	ヒューズ	3A 125V
FAN	送風機	DC12V ASFN40771
SV	給水電磁弁	VX212 AC48V
NB	超音波加湿ユニット	UP-015A
Tp	端子台	2P
Tr	サーモプロテクタ	55°C OFF
Tr	トランス	100V/48V/10V
DC-P	DC電源	DC12V UP-016B
SC	噴霧量調整器	SC-5A
SW1	電源スイッチ	A8L-21-11N2
SW2	電源スイッチ	A8L-21-11N2
XC	インロック※1	(客先手配)
CN3	本体接続用コネクタ	9P 小 7-9はNC
CN4	本体接続用コネクタ	6P 大

※1. インロックの接点は、無電圧接点、2A以上



注：点線は客先施工

4. 運転方法

- ① あらかじめトランスボックスの電源スイッチを ON しておきます。
- ② 給水バルブを開き、リモートコントロールの電源スイッチを ON します。
- ③ 給水が開始し、同時にファンが回り始めます。
- ④ 規定の水位に達すると、空運転防止用フロートスイッチが解除され、加湿運転を開始します。リモートコントロールの噴霧量調整器で霧化量を適宜調整してください。
- ⑤ さらに水位が上昇し、規定の水位に達すると給水用フロートスイッチが作動し、給水が停止します。その後、噴霧により水位が低下すると自動的に給水が繰り返されます。
- ⑥ 万一断水した場合は、空運転防止フロートスイッチが働き、運転は自動に停止します。
- ⑦ 給水圧が高い場合、給水用フロートスイッチが急激に作動し、給水電磁弁がカチカチと音を発することがあります。給水バルブを絞って流量を調節してください。
- ⑧ 加湿器設置時に、極端に噴霧量が減少することがあります。これは配管内の汚れなどが振動子表面に付着することが原因であると思われます。
水槽表面を軽く水洗いし、何度か水を入れ換えてから再度運転してください。
- ⑨ しばらく運転した後、配管各部に水漏れがないか確認してください。



注意

- 運転中に本器を持ち上げたり、動かしたりしないで下さい。
- 通電した状態で本器を横倒しや逆さまにしないで下さい（空運転状態になり、超音波発振回路が故障します）。
- 必ず“内蓋”を装着した状態で運転してください。（ファンに水がかかり、故障の原因になります。）
- 必ず“上蓋”を装着した状態で運転してください。（ファンからの風が水槽部に入らず、水温の異常上昇を引き起こします。）
- 清掃時や運転時にファンに水がかからないよう注意してください。故障の原因になります。

5.各部の保守・点検方法

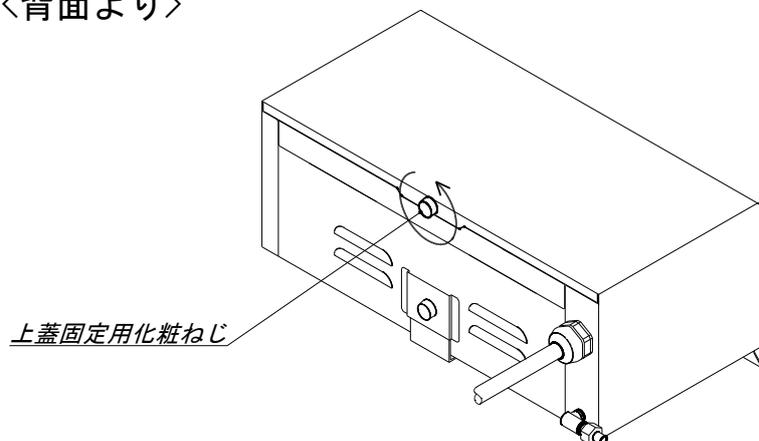
加湿器を正常に運転するため、次の手順にて手入れを行ってください。

5.1 定期清掃作業

・上蓋のはずし方

- ① 本体背面にある「上蓋固定用化粧ねじ」を2回転程度ゆるめる。

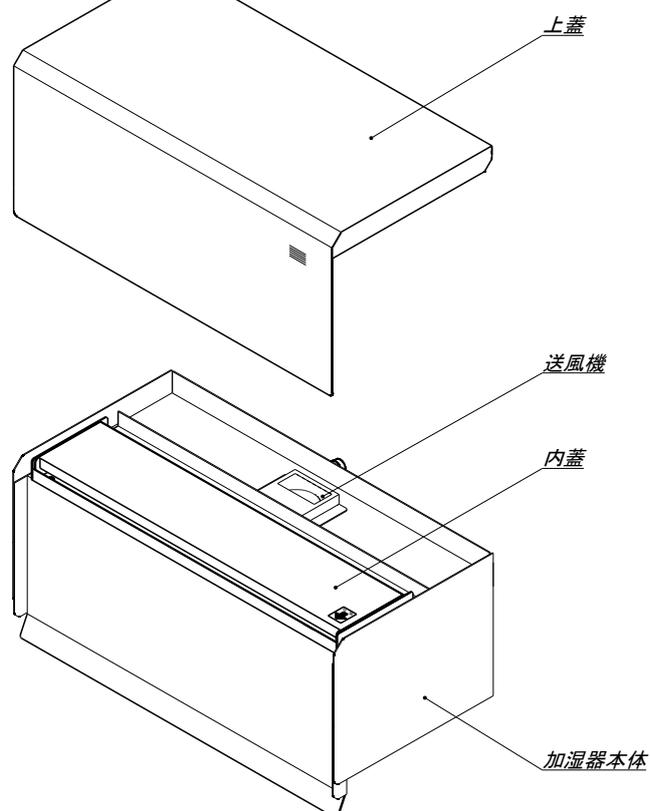
〈背面より〉



- ② 上蓋を垂直に取り外します。

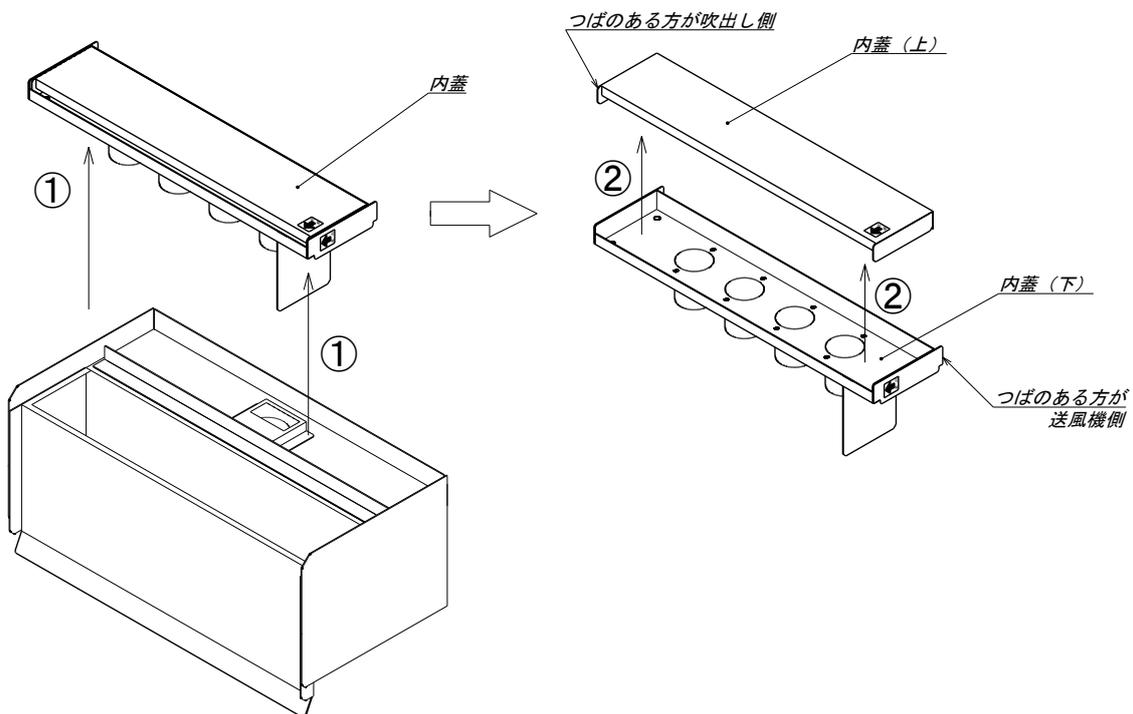
このとき、上蓋内面についた結露水が送風機などにかからないようにご注意ください。

〈正面より〉



・内蓋のはずし方

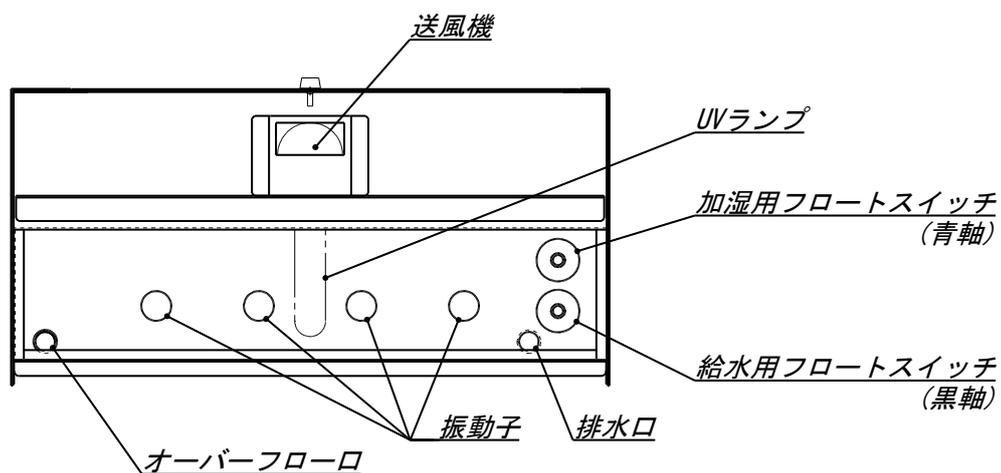
- ①内蓋を上方に取り出します。
- ②取り出した内蓋を”内蓋(上)”、”内蓋(下)”に分解し、それぞれを清掃します。



ヌメリや汚れがあると噴霧量が低下するだけでなく、衛生的にも悪影響をおよぼす恐れがあります。布等で除去してください。

・水槽部の清掃

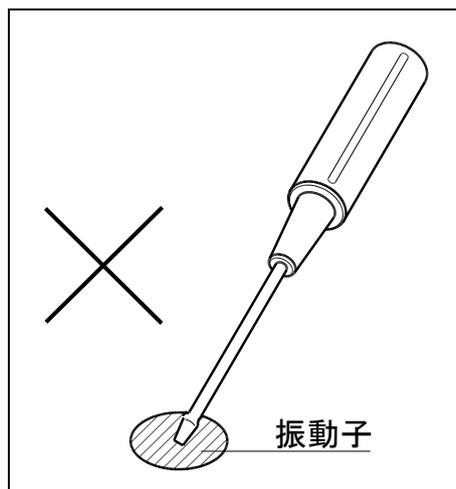
内蓋をはずすと下図のように水槽部が現れ、清掃が可能になります。



※加湿器を運転する際には、必ず内蓋と上蓋を組んだ状態で行ってください。機械が故障する原因になります。

■水槽・振動子の手入れ

- ① 電源スイッチを切って下さい。
- ② 内蓋を取り外して下さい。
- ③ 排水口の黒いキャップを外して排水を行い、水槽の汚れを柔らかいウェスなどで拭き取ります。
- ④ 振動子(丸い金属板)の表面は柔らかい布などで汚れを拭き取ります。決してドライバーなど固いもので削ったり、叩いたりしないで下さい。
- ⑤ 汚れを取り除いた後、電源スイッチを入れて給水し、もう一度排水して水槽内部をクリーンにして下さい。



⚠ 注意

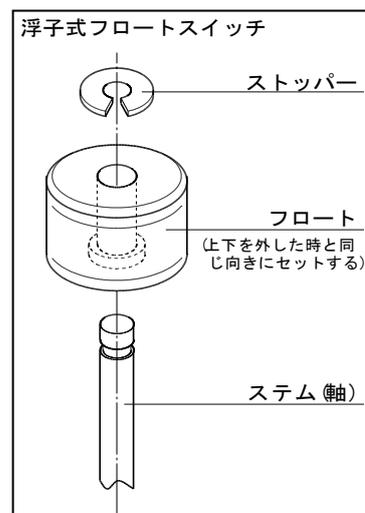
水槽内、霧の通り道は水質や空気中のホコリにより汚れやすいので、保健衛生上、定期的に(3日に1度)清掃を行って下さい。生鮮食品、生物への加湿を行う場合は、毎日清掃を行って下さい。

■フロートスイッチの手入れ

FT-S/SC1シリーズ標準タイプは浮子型フロートスイッチを使用しています。

- ① 通常はフロートを指で上下に動かし、スムーズに動けばOKですが、念のため、軸部、フロート部の汚れは丁寧に拭いて下さい。
- ② ストッパーを外し、ステム、フロートを拭いて掃除して下さい。
- ③ フロートは、上下の向きが決まっています。見落としの無いように外す前に良く確認してから行って下さい。(フロート下部に磁石が来ます)

※フロートスイッチの誤動作は、振動子の空運転や給水不良につながるので、定期的に行ってください。



■UVランプの手入れ (UVランプ搭載機種のみ)

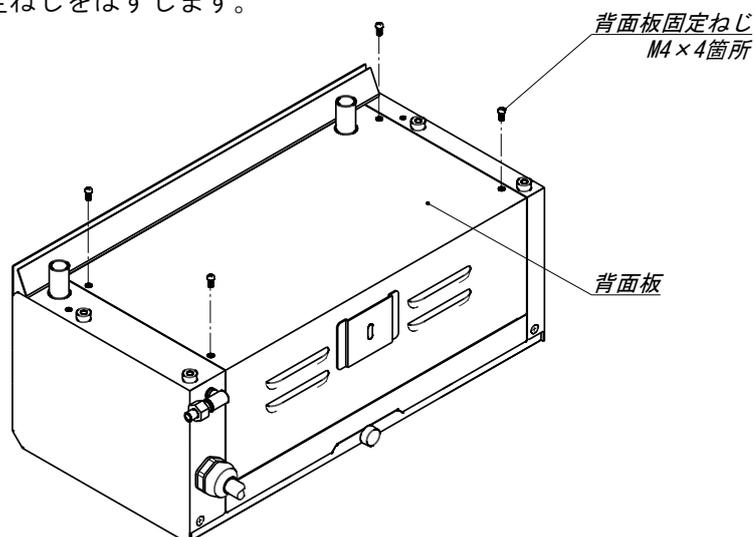
ランプ外管(石英ガラス管)の汚れを柔らかい布などで拭き取ります。決してドライバーなど固いもので削ったり、叩いたりしないで下さい。ガラス管が破損することがあります。

5.2 部品交換

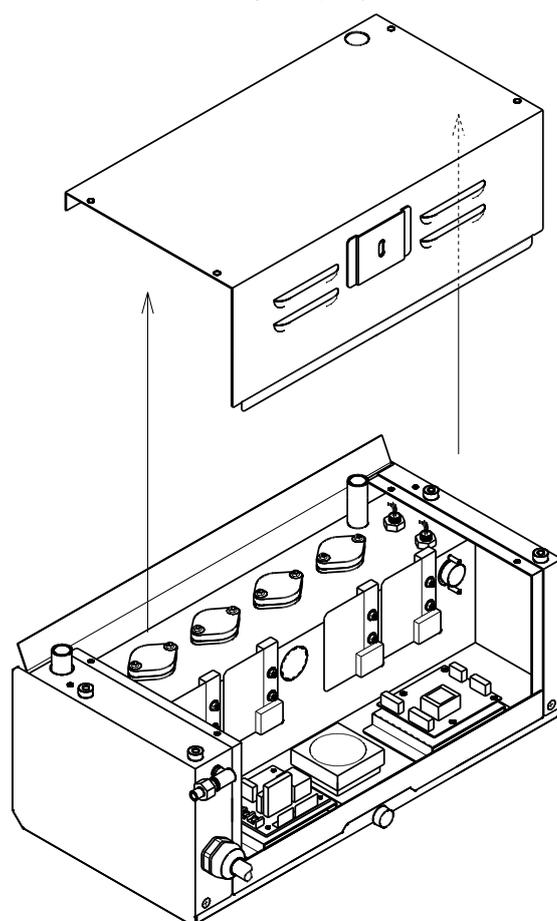
・カバー(背面板)の取り外し方

あらかじめ加湿器の電源もしくは元ブレーカを切り、上蓋を取り外し、排水を行っておい
てください。部品交換作業は、機器に水がかからない場所で行ってください。

- ① 本体をひっくり返し、底面を上にもかけて置きます。
- ② 背面板固定ねじをはずします。



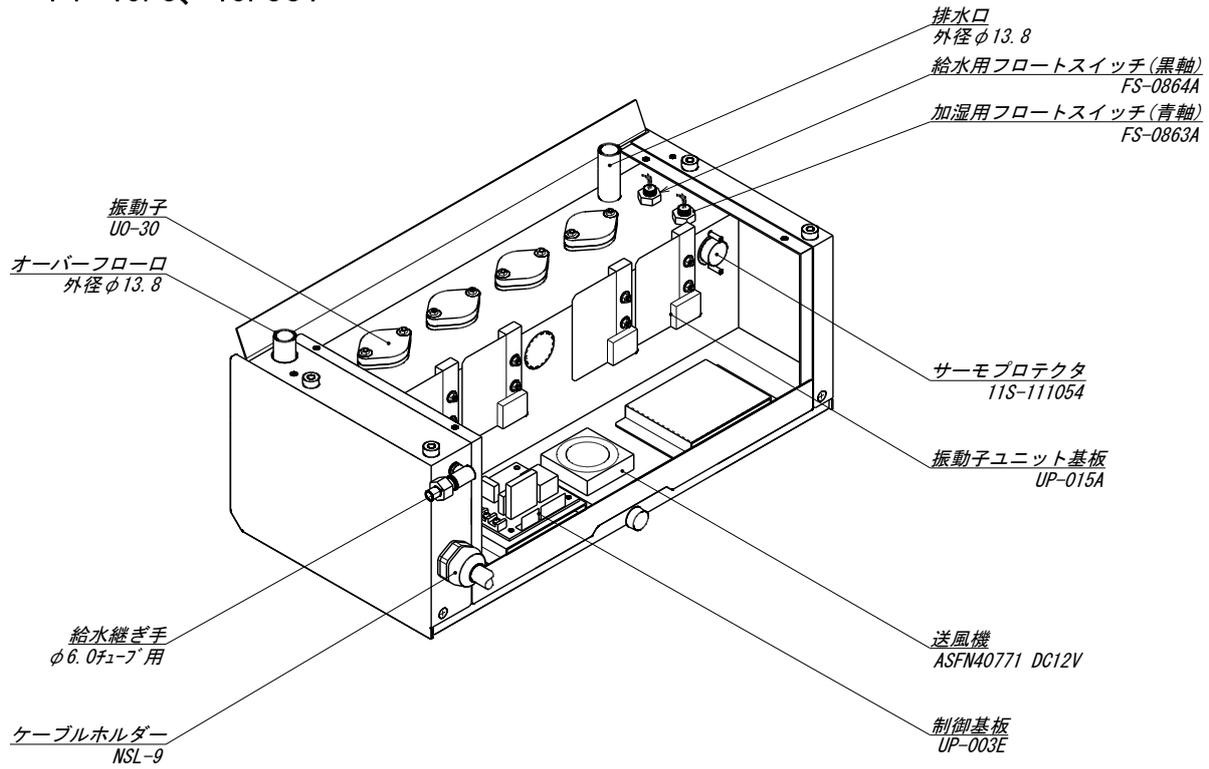
- ③ 背面板を上方にスライドさせて取り外す。



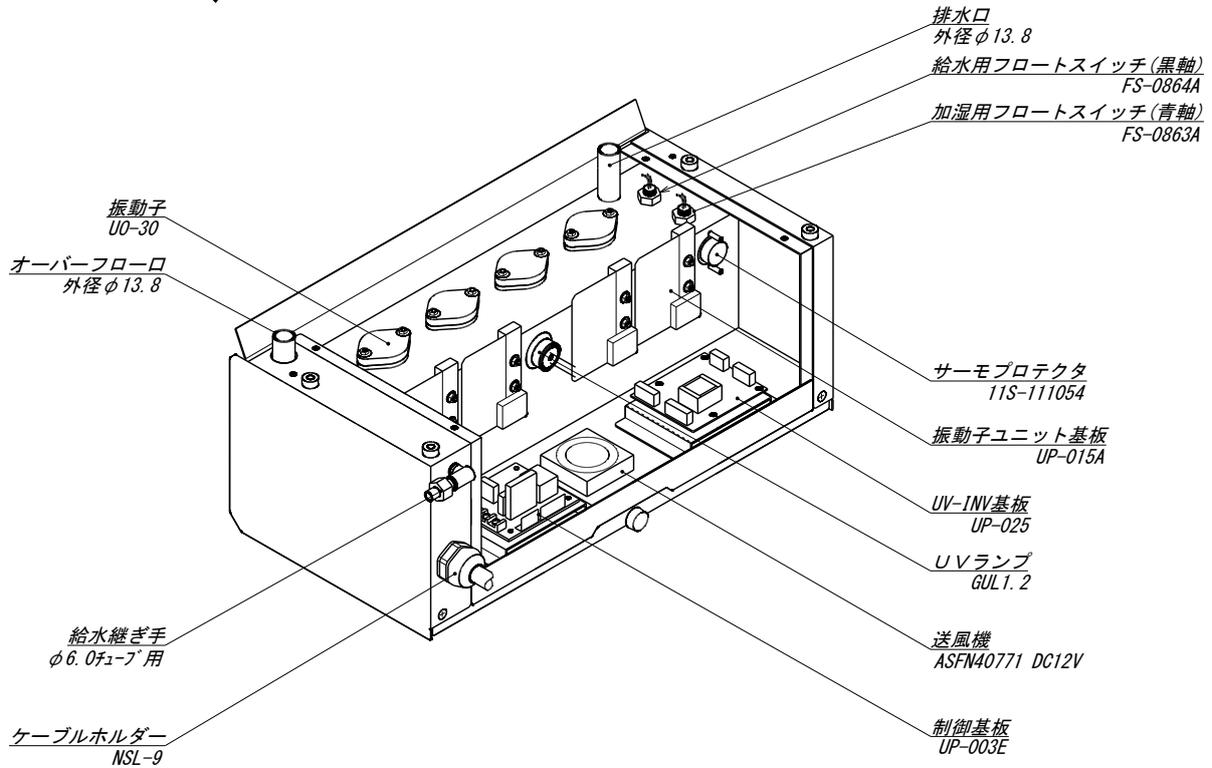
本体内部(電装部)が現れ、部品交換等が可能になります。

部品配置

FT-40FS、40FSC1



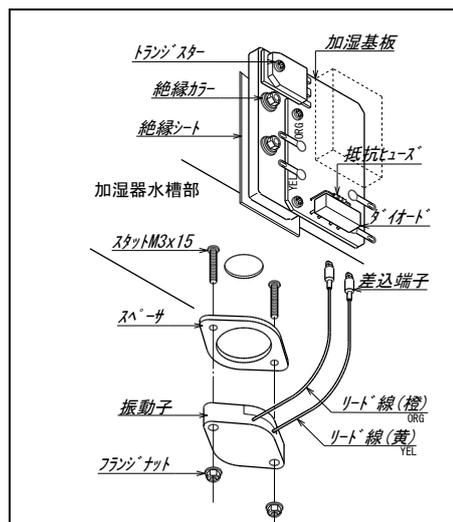
FT-40FSUV、40FSC1UV



■振動子の点検・交換の仕方

水槽底部の振動子（丸い金属）は、長期間使用するうちに経年劣化し、霧化量が減少していきます。新しい振動子に交換することで、霧化量が蘇ります。

- ① 振動子をとめている2ヶのフランジナットを外して下さい。（3mmナット用のボックスドライバ使用）
- ② 基板に差し込んである黄色と橙色のリード線を抜き、振動子を取り外します。
- ③ 新しい振動子に交換しフランジナットを締めます。このとき、片締にならないよう左右バランス良く締めて下さい。
- ④ リード線の差込端子をYEL（黄色）、ORG（橙色）の表示通り差し込みます。



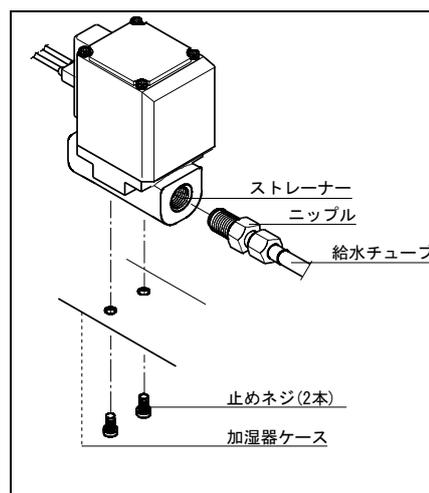
<超音波振動子の交換（5,000時間程度）>

振動子の交換時期は累計運転で約5,000時間です。早めに交換してください。

（振動子の交換時期は設置されている周囲の環境や水質、手入れの状況により早くなる場合があります。本器一ヶ年の保証期間中でも振動子の交換費用は実費請求させていただきます）

■電磁弁の手入れ

- ① 給水バルブを閉め、電源を切ってから作業にかかって下さい。
- ② スパナで給水銅管、及びニップルを外します。
- ③ 電磁弁を留めてある2本のねじを外し、電磁弁を取り出します。
- ④ ストレーナにゴミが詰まっていれば、それを取り除いて下さい。
- ⑤ 電磁弁の故障の場合は交換して下さい。
- ⑥ 元通りに組み立てて下さい。



■UVランプの交換方法：UV搭載機種

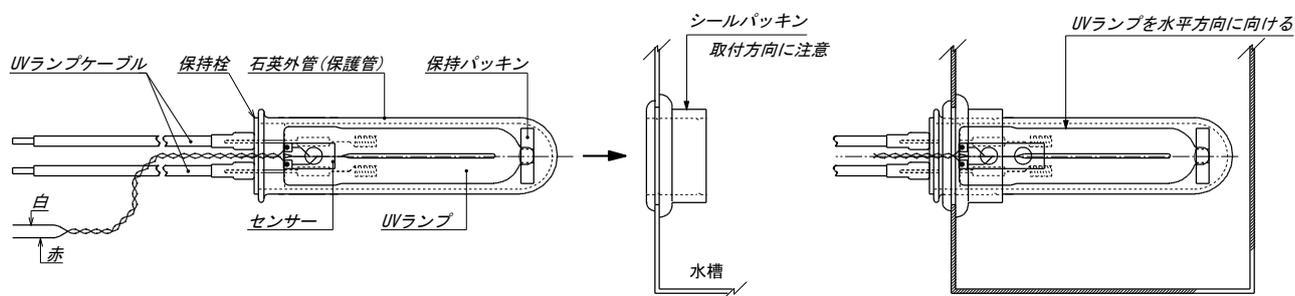
経年劣化によりランプが光量不足になるとセンサーが働き加湿器本体を停止させます。それと同時に、トランスボックスの「UV不良表示ランプ」が点灯しますので、その際は 最寄りの営業所にご連絡下さい(各営業所の連絡先は裏表紙に記載してあります)。

※UVランプの寿命は約10,000時間です。

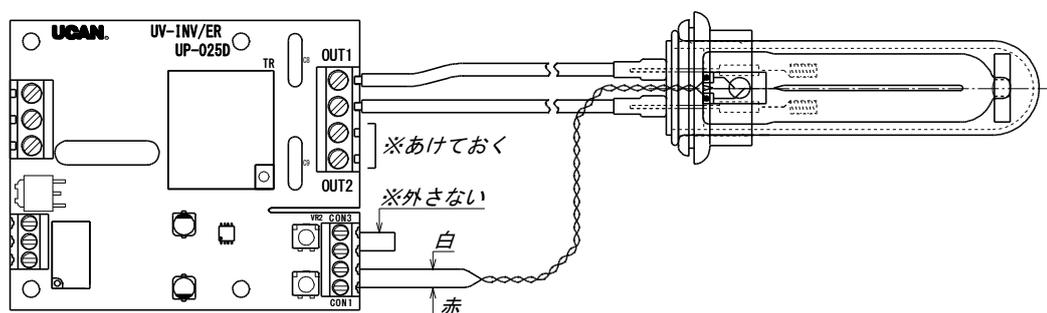
※弊社から交換部品としてUVランプを出荷する際は①石英外管(保護管)②保持パッキン③センサー④保持栓⑤ケーブルを組み合わせたセットで供給いたします。バラ売りはできませんのであしからずご了承ください。

【UVランプ交換手順】

- ① 「UV-INV基板」から、既設UVランプの電源ケーブルおよびセンサーのケーブルを抜きます。
- ② 「UVランプ」を石英外管ごと水槽部から抜きとります。
- ③ 新品の「UVランプ」を、水槽部シールパッキンに挿入します。このとき、シールパッキンがよじれたり外れたりしないようご注意ください。
※シールパッキンにキズや劣化がある場合は、新品に交換して下さい。漏水の原因になります。
- ④ UVランプが水平になるように調整して下さい。



- ⑤ UVランプケーブルを「UV-INV基板」のOUT1に接続します。
接続方法：端子台の上部にあるねじをゆるめ、ケーブルを差し込み、ねじを締め付けます。
※UVランプケーブルには極性はありません。
※OUT2には結線しないでください。
- ⑥ 同様に、センサーからのケーブルを「UV-INV基板」のCON1またはCON3に接続します。
※センサーには極性がありますので、下図を参照の上、赤・白線の接続位置を間違えないように接続してください。また、わたり線がある場合はそのままにしておいて下さい。



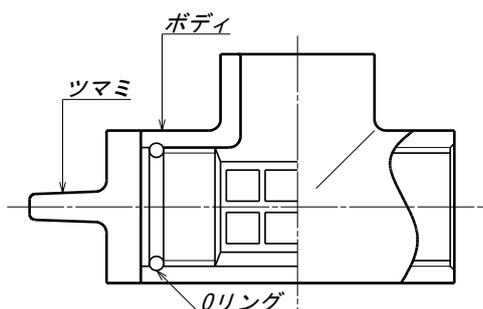
■ストレーナの手入れ

- ①反時計方向に回し、ストレーナを取り出します。
- ②ストレーナ底部にゴミがたまっていれば、それを取り除いて下さい。
- ③元通りに組み立てます。



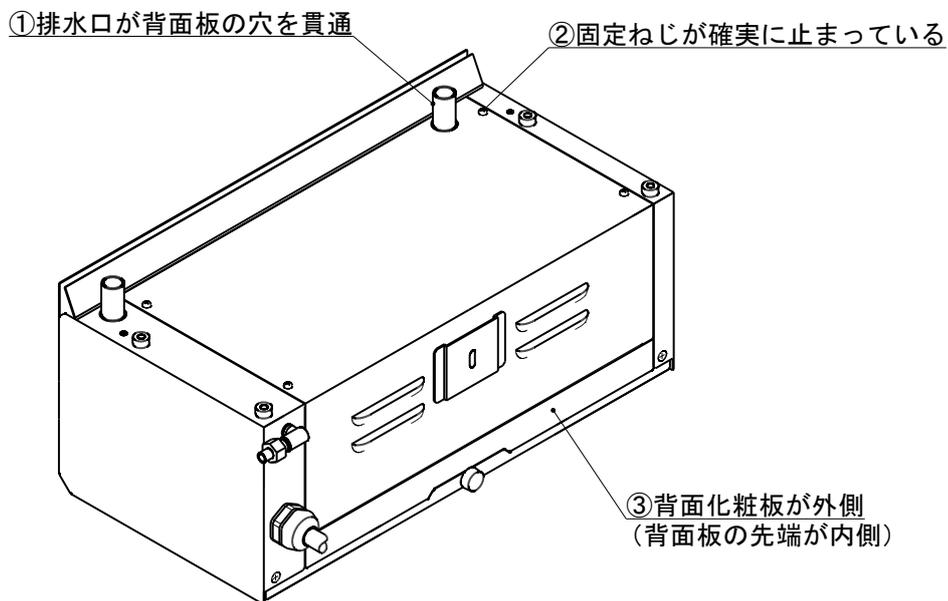
注意

- 試運転前・メンテナンス時・清掃時などにおいては、キャップをしっかりと締め切り、ツマミとボディの間が密着していることを確認してください。
- キャップを絞め込むときには、ストレーナ内を水抜きした状態で絞め込みしてください。（水圧が原因でOリングが変形し、水漏れの原因となる場合があります。）



※背面板の取り付けについて

背面板を組み付けた後は、以下の3点をチェックしてください。



6.トラブルシューティング

故障したとき、まず先に点検することは・・・

故障？	チェック	処置
給水されない	●給水バルブは開いていますか	●給水バルブを開く
加湿器が作動しない	●電気はきていますか ●電源スイッチはONになっていますか ●コネクタの接触不良は？	●テスターでチェックする ●スイッチを入れる ●トランスのコネクタ部を確認
スイッチを入れても加湿器が作動しない	●ヒューズは切れていませんか ●トランスボックスとリモートコントロールのスイッチは両方共入っていますか？	●切れていれば、付属のスペアと交換する ●確認する

以上を点検し、それでも解決しない場合は、原因を究明し、対処する必要があります。

■故障の原因

- ①振動子の経年劣化で霧化量が減少した状態で長時間運転を続けた場合。
(振動子基板トランジスタの故障)
- ②横倒しや逆さまな状態で通電した場合。
(フロートスイッチの誤作動で空運転し、振動子基板トランジスタが故障)
- ③加湿量よりも給水量が少ない場合。
(ON-OFFを頻繁に繰り返し、給水電磁弁や制御基板が故障
：最低水圧0.03MPa(0.3kgf/cm²))
- ④仕様に合わない電圧を供給した場合。
(100V仕様の製品に200Vを通電してしまうと、サージフィルタの焼損、トランス焼損や制御基板の故障を引き起こします。)
- ⑤落雷など、大きなサージが入った場合。
- ⑥基板の回路チェックにメガテスターを使用した場合。
- ⑦砂、石、鉄粉などが水槽に入ったままの状態、長時間運転を続けた場合。
- ⑧ストレーナを設置せず使用した場合。
(給水に異物が混入し、給水電磁弁にゴミ噛みを起こしオーバーフローすることがあります。)

■対処の仕方

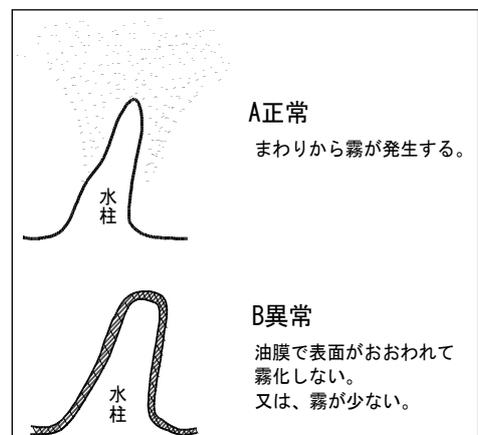
- 霧化量が減少してきた場合（故障の原因①の場合）

<設置後まもなくの時>

- ①水槽内の水に油成分、配管用接着剤などが混入している場合は、霧化が正常に行われません。電源を切ってから一度排水し、中性洗剤、スポンジタワシで水槽内を清掃後、再度給水し、泡が消えるまですすいでください。
- ②電源電圧が低下していないかチェックして下さい。

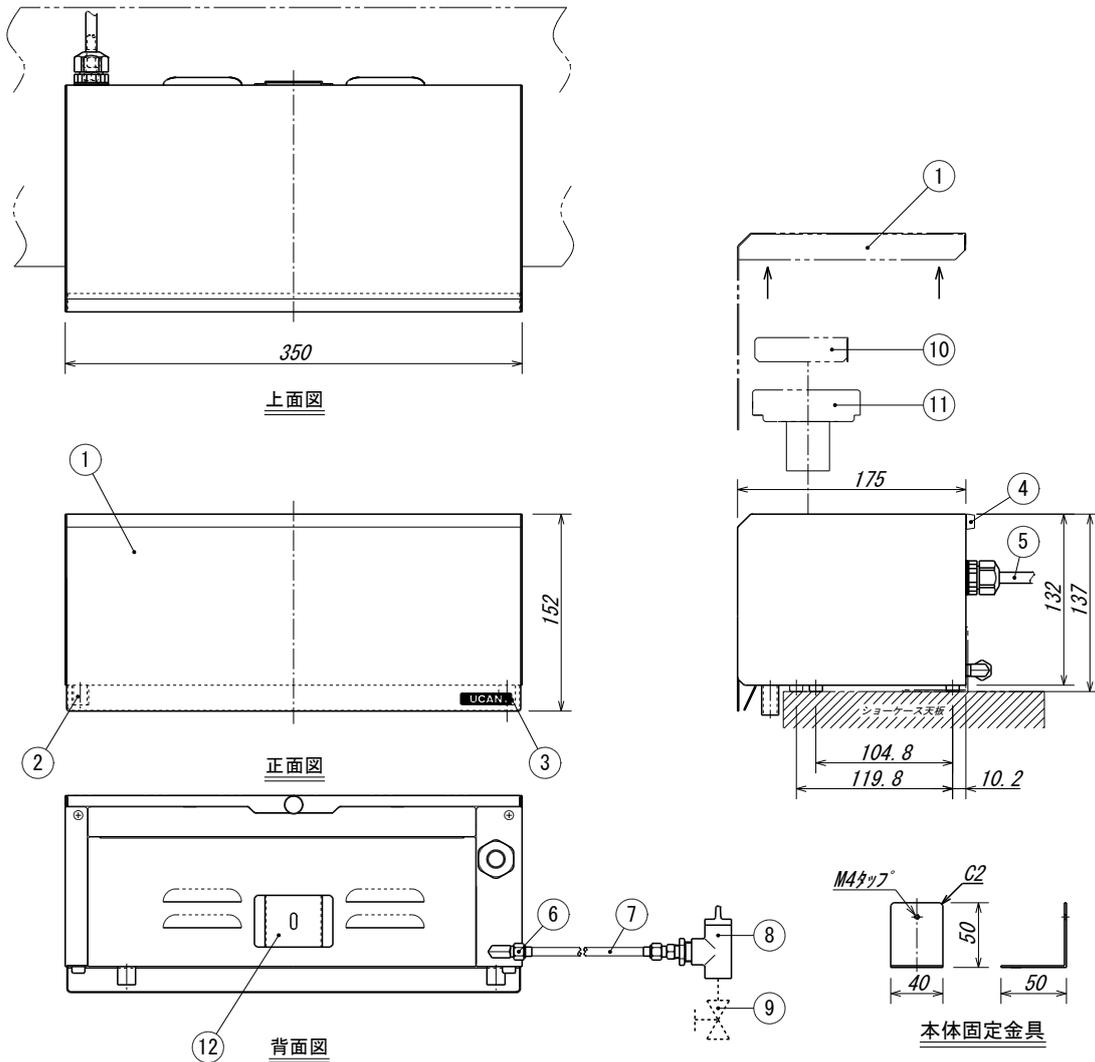
<長時間使用後>

- ①振動子の表面に汚れがたまっていないか調べて下さい。汚れている場合には、柔らかい布などで拭き取って下さい。
- ②振動子表面のメッキがはがれていたり、傷ついている場合は振動子の寿命です。
新しい振動子と交換して下さい。



7.仕様

・ FT-40FSC1(UV)



品番	品名	備考
1	上蓋	SUS304
2	オーバーフロー口	φ13.8
3	排水口(キャップ付)	φ13.8
4	上蓋固定用化粧ねじ	-
5	二次側ケーブル	VCTF
6	給水チューブ継ぎ手	φ6.0チューブ用
7	給水チューブ	(標準付属品)
8	給水ストレーナ	(標準付属品)
9	給水バルブ	(客先範囲)
10	内蓋(上)	SUS304
11	内蓋(下)	SUS304
12	本体固定板	-

標準付属品

品名	備考
給水チューブ	ナイロン, φ6.0, L=1000
給水ストレーナ	BC, 接続口径 Rc1/2
本体固定金具	SUS430, 固定ねじ
高さ調整ねじ	M3×20 2本、M3ナット 4個

標準仕様

項目 型式	最大加湿量 (L/h)	加湿 ユニット数	電源	消費電力 (VA)	風量 (m³/min)	給水方式 給水圧力	安全装置	周囲条件	重量 (kg)
FT-40FSC1	2.0	4	AC100V (AC200V)	150	0.17	配管による 自動給水 0.03~0.5MPa	空運転防止 回路保護ヒューズ サージフィルタ	5℃~40℃ 90%RH以下 結露なきこと	6.0
FT-40FSC1UV	2.0	4	AC100V (AC200V)	153	0.17	配管による 自動給水 0.03~0.5MPa	空運転防止 回路保護ヒューズ サージフィルタ	5℃~40℃ 90%RH以下 結露なきこと	6.1

トランスボックス外形仕様図

・ FT-40FSC1

① トランス取付板
② トランスカバー
③ 電源スイッチ
④ 一次側ヒューズ
⑤ 電源トランス
⑥ 端子台
⑦ 本体接続コネクタ
⑧ リモートロー接続コネクタ
⑨ リモートロー本体
⑩ 電源スイッチ
⑪ 噴霧量調整器

電源トランス仕様

型 式	FT-40FSC1
トランス容量	150VA
重 量	4.8kg
ヒューズ	3A (2A)
周囲条件	温度5℃～40℃、湿度90%RH以下 結露なきこと

※ ()内は200V仕様

ケーブル長さ1500mm

リモートコントローラ

番号	品 名	備 考
①	トランス取付板	ZAM
②	トランスカバー	SUS430
③	電源スイッチ	ロッカスイッチ
④	一次側ヒューズ	ガラス管
⑤	電源トランス	100V/48V/10V
⑥	端子台	2P(膜付)ロケット付
⑦	本体接続コネクタ	9P 小
⑧	リモートロー接続コネクタ	6P 大
⑨	リモートロー本体	SUS430
⑩	電源スイッチ	ロッカスイッチ
⑪	噴霧量調整器	SC-5A

・ FT-40FSC1UV

① トランス取付板
② トランスカバー
③ UV不良表示ランプ
④ 電源スイッチ
⑤ 一次側ヒューズ
⑥ 電源トランス
⑦ 端子台
⑧ 本体接続コネクタ
⑨ リモートロー接続コネクタ
⑩ リモートロー本体
⑪ 電源スイッチ
⑫ 噴霧量調整器

電源トランス仕様

型 式	FT-40FSC1UV
トランス容量	153VA
重 量	4.8kg
ヒューズ	3A (2A)
周囲条件	温度5℃～40℃、湿度90%RH以下 結露なきこと

※ ()内は200V仕様

ケーブル長さ1500mm

リモートコントローラ

番号	品 名	備 考
①	トランス取付板	ZAM
②	トランスカバー	SUS430
③	UV不良表示ランプ	-
④	電源スイッチ	ロッカスイッチ
⑤	一次側ヒューズ	ガラス管
⑥	電源トランス	100V(200V):48V/10V
⑦	端子台	2P(膜付)ロケット付
⑧	本体接続コネクタ	9P 小
⑨	リモートロー接続コネクタ	6P 大
⑩	リモートロー本体	SUS430
⑪	電源スイッチ	ロッカスイッチ
⑫	噴霧量調整器	SC-5A

保証規定

- 1.本製品の保証期間は、工場出荷後一年間です。
- 2.保証期間中の「正常な使用状態」において「製造上」の責任による故障が発生した場合は無償修理を行います。
- 3.保証期間中でも次の場合には有償修理になります。
 - (イ) 取扱説明書の説明をお守りにならなかったために発生した故障の場合。
 - (ロ) 故障原因が本器以外による故障の場合。
 - (ハ) お客様が商品に改造を加えたために発生した故障の場合。
 - (ニ) 火災、震災などの天災地変による故障および損害。
 - (ホ) お買い上げ後の輸送、移動などによる故障の場合。
 - (ヘ) 振動子交換
- 4.遠隔地への出張サービスを行った場合の宿泊および交通の費用は、弊社旅費規程によりその費用を請求させていただきます。
- 5.本商品の保証修理以外での補償は致しかねます。
- 6.本保証は日本国内においてのみ有効です。

お問い合わせ、ご用命は

UCAN®

ユーキャン株式会社

本 社 ●〒193-0832

東京都八王子市散田町5-6-19
TEL. 042-665-8846 FAX. 042-661-3887

東京営業所 ●〒160-0022

東京都新宿区新宿1-1-7 コスモ新宿御苑ビル
TEL. 03-5379-1461 FAX. 03-5379-1460

大阪営業所 ●〒541-0046

大阪市中央区平野町1-7-14 平野町グランドビル
TEL. 06-6227-1317 FAX. 06-6227-1319

名古屋営業所 ●〒460-0002

名古屋市中区丸の内3丁目2-1-23 宇佐美丸の内ビル
TEL. 052-385-3298 FAX. 052-385-3606

福岡営業所 ●〒812-0027

福岡市博多区下川端町1-3 明治通りビジネスセンター別館
TEL. 092-281-9241 FAX. 092-281-9244

なお、記載された商品の仕様・デザインなどは、改良のため予告なく変更することがございます。ご了承下さい。

<http://www.ucan.co.jp/>
info@ucan.co.jp

2190712